



Adobe® InDesign® CS2 日本語版

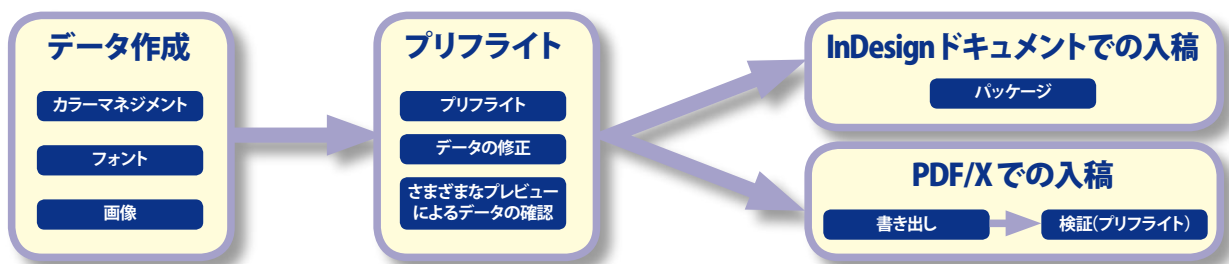
的確な出力を行うための データ入稿の手引き

この手引きは、Adobe InDesign CS2を使って作成された書類を、的確に効率よく出力して頂けるよう、書類作成時およびデータ入稿時の重要なポイントを中心に解説しています。本手引きに沿って作業をしていただくことで、出力時の無用なトラブルを防ぎ、よりの確な出力が可能となります。

なお、出力する環境によっては、本手引きに記載してあることが必ずしも当てはまらない場合があります。そのような場合には、事前に出力・印刷会社とご相談ください。



データ作成から入稿までのワークフロー

Adobe InDesign CS2で作成したデータは、**Adobe InDesign CS2 ドキュメント**、**PDF/X**の2つの形態で入稿することができます。いずれの入稿形態でも「**データ作成**」から「**プリフライト**」までは、共通のワークフローになります。その後、Adobe InDesign CS2 ドキュメントで入稿する場合は「**パッケージ**」、PDF/Xで入稿する場合は「**書き出し**」「**検証**」の作業を行い、入稿データを作成します。



Adobe InDesign CS2 での入稿の形態と特色

入稿の形態は、出力側の環境などやデータの制作状況に併せて決めることができます。相手側の環境が把握できる場合には通常の Adobe InDesign ファイル、相手の環境にとらわれることなく入稿したい場合は、汎用性の高い **PDF/X** をお勧めします。

	 Adobe InDesign CS2 ドキュメントでの入稿	 PDF/X での入稿
概要	Adobe InDesign CS2 で制作したファイルで入稿することができます。この場合は、「 パッケージ 」という機能を使って使用しているファイルをまとめ、入稿用データを整えます。	作成したデータを PDF ファイルへ書き出して入稿します。このときの PDF ファイルの形式は「 PDF/X¹ 」です。本手引きでは、CMYK および特色のワークフローをサポートする一般的な商用印刷の規格である PDF/X-1a について説明しています。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出力品質が安定しています。 ■ すべてのデータの修正を行うことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出力品質が安定しています。 ■ 画像、フォント、印刷情報などすべて含むため、入稿するファイルはひとつです。 ■ PDF を利用した簡潔なワークフローが構築できます。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 画像、フォントを添付して入稿する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特にありません。

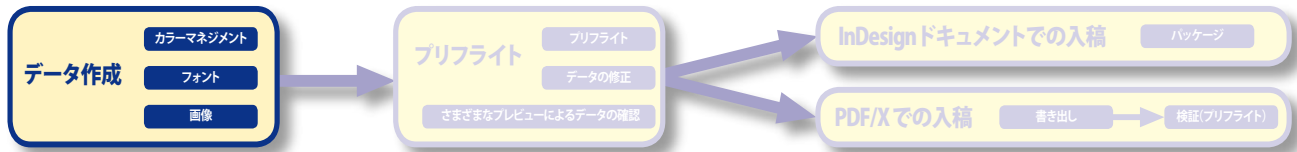
*PDF/Xの規格

PDF/Xは、印刷用データとしてのISO（国際標準化機構）の規格で、PDFの運用上のガイドラインを示しています。PDF/XはPDF上で、印刷上のトラブルの原因となるカラー、フォントなどの諸設定の運用を制限し、円滑な印刷工程を実現するものです。ISOの規格としてのPDF/Xには、PDF/X-1aとPDF/X-3があります。PDF/X-1aは、特定の出力デバイスで使用されるCMYKおよび特色のワークフローをサポートするものです。PDF/X-3は、Labなどのデバイスに依存しないカラーを利用したワークフローをサポートするものです。本手引きでは、一般的なPDF/X-1aについて説明しています。



データ作成

データ作成時に注意しなければならない主なポイントは、カラーマネジメント、フォント、画像、そしてデータ作成後の透明効果やオーバープリントの確認です。このポイントさえしっかりと確認しておけば、データ作成におけるトラブルを回避することができます。



カラーマネジメント

カラーマネジメントは、ワークフローや最終入稿形態によって作業するカラースペースに合わせて、RGBカラーやCMYKカラーの**プロファイル**を指定することによってカラーの一貫性を保ちます。ここでは一般的な商用印刷のワークフローで使用する設定について説明しますが、実際の入稿データの作成の際には出力・印刷会社と相談して決定してください。

1. **編集／カラー設定**を選択し、**カラー設定**ダイアログボックスを表示します(1)。
2. 「**設定**」から使用するカラーマネジメントのプリセットを選択します。出力・印刷会社の指定がない場合は商用印刷の標準的な設定である「**プリプレス用-日本2**」を選択してください(2)。

出力・印刷会社よりプロファイルの指定がある場合

出力・印刷会社より、使用する印刷機のプロファイルを指定された場合は、カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」の「CMYK」から指定されたプロファイルを選択します。また、出力・印刷会社より、使用する印刷機のプロファイルを提供された場合は、プロファイルを[起動ディスク]/ライブラリ/Application Support/Adobe/Color/Profiles フォルダ (Mac OS X)、[起動ディスク]/Program Files ¥Common files ¥Adobe ¥Color ¥Profiles フォルダ (Windows)の中へコピーします。その後、カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」の「CMYK」からコピーしたプロファイルを選択します。「作業用スペース」の「CMYK」以外の部分は「プリプレス用-日本2」の設定にしておきます。「保存」ボタンをクリックし、カラーマネジメントの設定を保存します。これにより、他の Adobe Bridge や Creative Suite アプリケーションやでこの設定を使用することができます。

3. ダイアログボックス上部に「**未同期**」(3)と表示されている場合は、Adobe Bridgeを使って、Creative Suite アプリケーションで**カラー設定を同期**させます。
4. **Adobe Bridge**を起動し、**編集／Creative Suiteのカラー設定**を選択します(4)。
5. Suiteの**カラー設定**ダイアログボックスで、同期させるカラー設定を選択し(5)、「**適用**」ボタン(6)をクリックします。これでカラー設定が同期され、Creative Suite アプリケーション全体で同じカラー設定を使用できます。
6. InDesignの**表示／色の校正**を選択すると、設定したカラーマネジメントのプロファイルでドキュメントがプレビューされるようになります。これで、色を確認することができます。



旧バージョンのカラー設定を選択するには、「カラー設定ファイルの展開したリストを表示」をチェックします。

フォント

InDesignでは、使用しているオペレーティングシステムで正しく認識されているフォントを使用することができますが、商用印刷用のデータを制作する場合は、高解像度の出力に適したフォントを使用します。高解像度の出力に適しているのは、**OpenType**、**CID**、**欧文Type 1**フォントなどです。TrueTypeフォントなどを使用したい場合は、出力・印刷会社にあらかじめご相談ください。使用しているフォントを確認するには、フォント検索を利用します。

1. 書式/フォント検索を選択し、フォント検索ダイアログボックス(1)で使用しているフォントを確認します。
2. 使用しているフォントの種類によってアイコンが異なります(2)ので、**フォントの種類が適切かどうかを確認**します。「詳細情報」ボタンをクリックしてダイアログボックスを拡張すると、**選択したフォントの情報(3)**が表示されます。アイコンの種類についてはオンラインヘルプを参照してください。Mac OSのdfontフォントなど商用印刷に適していないフォントなどは置き換える必要があります。
3. 警告アイコン(4)が表示されているフォントは、**システムにないフォント**です。フォントをシステムにインストールするか、別のフォントに置き換える必要があります。
4. 置き換えたいフォントをリストから選択し、「最初を検索」ボタン(5)をクリックして、そのフォントが使用されている場所をドキュメント上で確認してから、「次で置換」(6)で置き換えるフォントを選び、「変更」(7)、「変更/検索」(8)ボタン、あるいは「すべてを置換」(9)ボタンをクリックしてフォントを置換します。詳しい操作方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



配置されたグラフィックファイル内で使用しているフォントです。配置されたグラフィック内で使用しているフォントがシステムにない場合も警告アイコンが表示されます。フォントをシステムにインストールするか、グラフィックファイルを作成元のアプリケーションでフォントを変更してください。

配置されたグラフィック内のフォント

配置されたグラフィック内で使用しているフォントは、アウトライン化するか、ファイルにフォントを埋め込むようにしてください。配置したグラフィックのフォントについて、フォント検索は可能ですが、InDesignで置換することはできません。配置したグラフィックのフォントを置換するには、グラフィックを作成したアプリケーションでそのグラフィックを開いて修正し、リンクパレットを使用してリンクを更新します。

画像

InDesignにはさまざまなファイル形式のグラフィックを配置することができます。InDesignに配置できる画像形式なら、どの形式でも出力することは可能ですが、高品質での出力が必要な場合は、PSD (Photoshop)、TIFF、EPS、AI (Adobe Illustrator 書類)、PDFのファイルを配置するようにしてください。ただし、EPSファイルについてはカラーマネジメントができない形式ですので注意が必要です。配置されている画像の確認には、リンクパレット利用します。

1. ウィンドウ/リンクを選択し、リンクパレットを表示し、画像を確認します(1)。項目を選択して、「リンクへ」アイコン(2)をクリックすると、InDesignドキュメント上の配置された画像が表示されます。
2. 変更されたリンクアイコン(3)が表示されている項目は**リンク画像が未更新**であることを示しています。項目を選択し、パレットメニューから「リンクの更新」(4)を選択してリンクを更新します。
3. 無効なリンクアイコン(5)が表示されている項目はグラフィックファイルが読み込み元の場所に見つからないことを示しています。項目を選択し、パレットメニューから「再リンク」(6)を選択して表示されるダイアログボックスで画像を選択してリンクを設定しなおしてください。
4. リンクパレットにアイコンが表示されていないことを確認してください(7)。



画像のカラーモード

InDesignでは、CMYKカラーモード以外のカラーモードの画像を色分解出力することができるため、RGBカラー画像を配置することも可能です。ただし、RGBカラー画像は、出力時にInDesignカラー設定により色分解が行われますので、ほかに配置されている画像で異なるプロファイルを使用している場合は色が違ってしまいう可能性があります。また、プリフライトでは、RGBカラーの画像も警告の対象となるため、警告のアイコンが表示されます。

Adobe InDesign CS2 ドキュメントでの入稿 — パッケージ

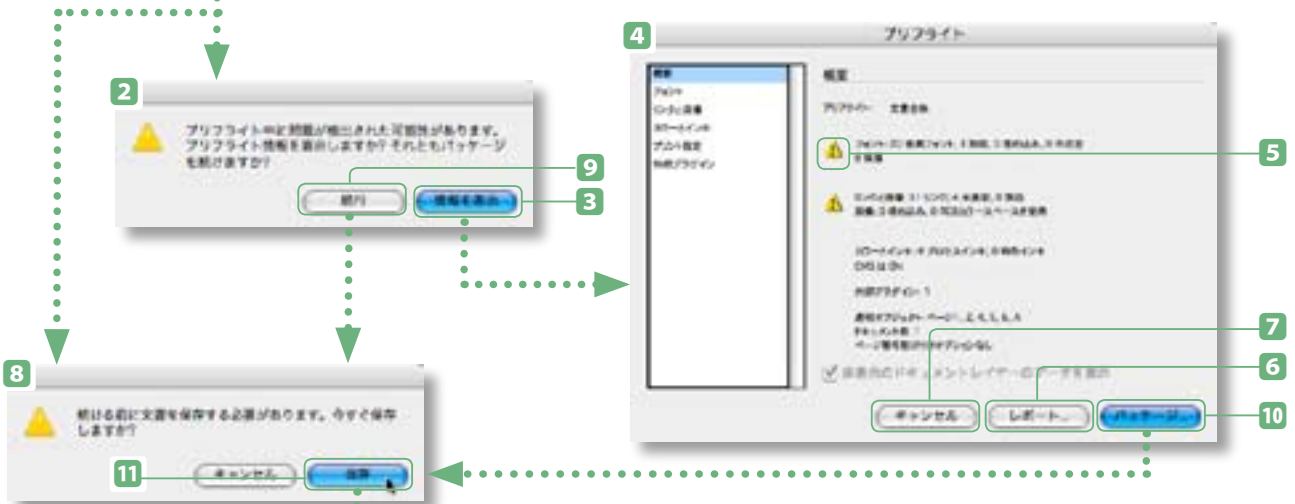
データの移動用、入稿用のデータをまとめるには「パッケージ」機能を利用します。パッケージを使用することにより、出力時に必要なファイルを集めることができます。また、デザイナーと出力・印刷会社の担当者とがスムーズに連絡を取り合えるように、連絡先情報や指示を含めることも可能です。



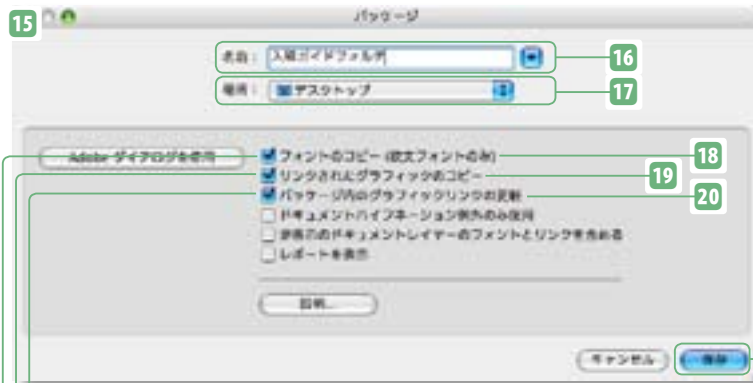
プリフライトからパッケージの実行



1. ファイル／パッケージを選択します (1)。自動的に**プリフライトチェック**が実行されます (ファイル／プリフライトを選択しても同じようにプリフライトが実行されます)。
2. プリフライトで問題が検出されると、警告のダイアログボックス (2) が表示されます。「**情報を表示**」ボタン (3) をクリックすると、**プリフライト**ダイアログボックスが表示されます (4)。警告マーク (5) の出ている部分を確認し、必要に応じて修正します。詳しくはオンラインヘルプを参照してください。プリフライトチェックした内容をテキストファイルとして保存する場合は、「**レポート**」ボタンをクリックします (6)。パッケージをせずにプリフライトを終了する場合は、「**キャンセル**」ボタンをクリックします (7)。
3. プリフライトで問題がなかった場合は、警告のダイアログボックス (2) は表示されず、ドキュメントの保存を確認するダイアログボックス (8) が表示されます。
4. 警告のダイアログボックスで「**続行**」ボタン (9) をクリックするか、**プリフライト**ダイアログボックスの「**パッケージ**」ボタン (10) をクリックすると、パッケージ作業が始まり、ドキュメントの保存を確認するダイアログボックス (8) が表示されます。
5. 確認のダイアログボックスで「**保存**」ボタン (11) をクリックします。



6. 印刷の**指示**ダイアログボックス (12) が表示されます。このダイアログボックスに入力した項目は、パッケージされたフォルダ内に、「**ファイル名**」(13)に入力した名前で、テキストデータとして保存されます。
7. 必要に応じて項目を入力してください。
8. ここで入力できる項目以外に、ドキュメント設定、ドキュメント内に使用されているすべてのフォント、リンク、ドキュメントの印刷に必要なインキ、および現在の印刷設定などが、テキストファイル内に記載されます。
9. 項目の入力ができたら「**続行**」ボタン (14) をクリックします。



「リンクされたグラフィックのコピー」オプションを選択した場合は必ずチェックしてください。このオプションによって、さまざまな場所から「Links」フォルダにコピーされたリンク画像のリンク情報が修正されます。

パッケージしたフォルダの中に「Links」フォルダが自動的に作成され、そこにInDesignドキュメント内に配置されているリンク画像がコピーされます。

パッケージしたフォルダの中に「Fonts」フォルダが自動的に作成され、そこにInDesignドキュメント内で使用している欧文フォントがコピーされます。



「フォントのコピー（欧文フォントのみ）」をチェックしていると、欧文フォントがコピーされます。Adobe社のフォントの場合、出力・印刷のために1回だけコピーすることが許されていますが、他のフォントソフトウェアについては、各メーカーのライセンス契約を確認してください。

10. パッケージダイアログボックス (15) が表示されます。「名前」(16)にパッケージするフォルダ名を入力し、保存する場所を指定(17)します。

11. パッケージするファイルのオプションを指定します。「フォントのコピー（欧文フォントのみ）」(18)、「リンクされたグラフィックのコピー」(19)、「パッケージ内のグラフィックリンクの更新」(20)の3つのオプションは必ずチェックするようにしてください。他のオプションについては、必要に応じて選択します。

12. 設定が完了したら、「保存」ボタン(21)をクリックします。

13. パッケージダイアログボックスの「フォントのコピー（欧文フォントのみ）」(18)をチェックしている場合、フォント警告(22)が表示されます。内容を確認して「OK」ボタン(23)をクリックします。

14. リンクファイルなどのコピーが始まります(24)。

15. 指定した名前のパッケージフォルダが作成されます(25)。パッケージフォルダの中(26)には、InDesignファイルのほか、指定したファイルやフォルダがコピーされています。



リンクされている画像がコピーされます。

使用されている欧文フォントがコピーされます。

作成したInDesignファイルがコピーされます。

印刷の指示ダイアログボックス(12)で入力した項目や、ドキュメント設定、ドキュメント内に使用されているすべてのフォント、リンク、ドキュメントの印刷に必要なインキ、および現在の印刷設定などが記載されたテキストファイルが作成されます。

パッケージフォルダの注意

パッケージしたInDesignファイルで、パッケージフォルダ以外の画像を配置して修正した場合は、再度パッケージを行うようにしてください。リンク画像を手動で「links」フォルダにコピーしても、リンクは正しく修正されず、出力トラブルに繋がる場合があります。

プリフライトだけを実行するには

PDF/X-1aファイルに書き出す場合などは、プリフライトだけ行うこともできます。



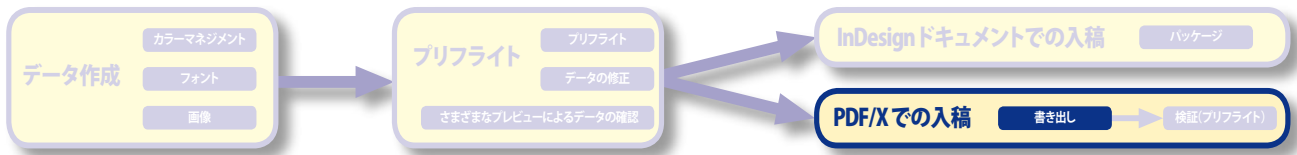
1. ファイル／プリフライトを選択します。プリフライトが開始され、プリフライトドキュメントダイアログボックスにプログレッシブバーが表示されます。

2. チェックが終了すると、プリフライトダイアログボックスが表示されます(4)。プリフライトダイアログボックスの操作はパッケージの場合と同じです。

3. プリフライトを終了する場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします(7)。

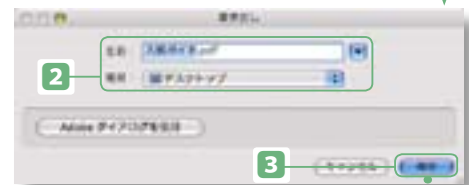
PDF/Xでの入稿—書き出しプリセット

出力側と制作側のフォント環境、オペレーティングシステムやアプリケーションのバージョンが異なる場合でも、汎用性が高いPDF/X-1aなら、入稿データとして利用することができます。InDesignには、PDF/Xのデータを作成するための書き出しプリセットが用意されています。なお、PDF/Xには、CMYKおよび特色のみをサポートするPDF/X-1aと、Labなどのデバイスに依存しないカラーの利用が可能なPDF/X-3規格がありますが、ここでは、一般的なPDF/X-1aについて説明します。



PDF/X-1aファイルの作成

1. 必要に応じてファイル/プリフライトを選択し、**プリフライト**を行います(本手引きの6ページを参照)。
2. ファイル/ PDF書き出しプリセット/ **PDF/X-1a:2001 (日本)** (1)を選択します。
3. 書き出しダイアログボックスで、ファイル名と保存場所 (2)を指定し、「保存」ボタン(3)をクリックします。
4. Adobe PDFを書き出しダイアログボックスが表示されます。「PDF書き出しプリセット」が「PDF/X-1a:2001 (日本)」、「標準」が「PDF/X-1a:2001」(4)になっていることを確認してください。
5. 一般パネル(5)の「ページ」(6)でPDF/X-1aに書き出すページ数を指定します。出力・印刷会社の指示がない限り、「見開き印刷」はオフにしてください。
6. トンボと裁ち落としパネル (7)で**トンボや裁ち落とし領域**、および**印刷可能領域を設定**します。このパネルの設定は、書き出したPDFファイルをどのように面付けして印刷するか(後工程)によって変わるため、出力・印刷会社のオプション設定になります。出力・印刷会社に問い合わせしてから設定してください。
7. 基本的には、そのほかのパネルは設定を変更する必要はありません。変更する必要が生じた場合は、出力・印刷会社に相談のうえ、必要に応じて設定します。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。
8. 設定が終了したら、「書き出し」ボタン(8)をクリックします。これでPDF/X-1aファイルが作成されます。この設定を保存しておきたい場合は、「プリセットを保存」ボタンをクリックします(9)。

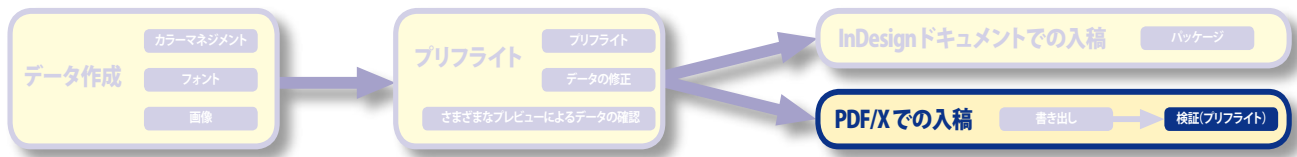


他のパネルの設定を変更すると、「PDF書き出しプリセット」のプリセット名の最後に「(変更済み)」と表示されます。



Adobe Acrobat 7.0 Professional での検証

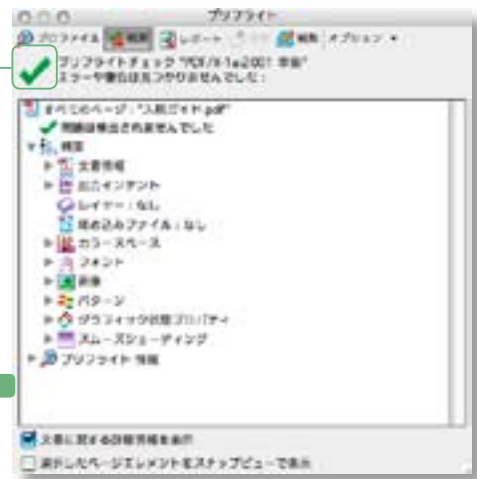
PDFが作成できたら、入稿する前に、Adobe Acrobat 7.0 Professionalで**検証(プリフライト)**を行います。



1. Adobe Acrobat 7.0 Professionalで、書き出したPDFを開き、アドバンスド／プリフライト(1)を選択し、プリフライトパネルを開きます。
2. プリフライトする**プロファイルを選択(2)**し、「実行」ボタン(3)をクリックします。
3. プリフライトが終了し、エラーがない場合は、結果パネル「✓」(4)が表示されます。これで、プリフライトは終了です。
4. 結果パネルに×印(5)が表示され、エラーが検出が出た場合は、エラーの情報を確認します。「注釈」ボタン(6)をクリックし、注釈の埋め込みを警告する、**レポートを埋め込みダイアログボックス**が表示されますので、「はい」ボタン(7)をクリックします。PDFファイル上でエラーが検出された部分に注釈が付加されます。
5. エラーの場合とエラーの内容を注釈で確認(8)したら、InDesignで元のドキュメントを開き、エラーの箇所を修正してから再度PDF/X-1aでファイルを書き出して検証してください。



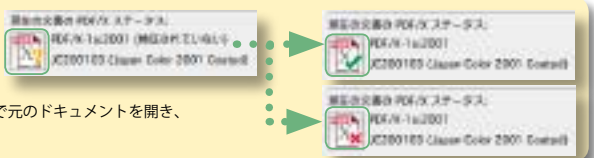
ここでは、PDF/X-1a:準拠を選択していますが、作成したPDFファイルの用途によってプリフライトに使用するプロファイルを選択してください



注釈の使い方については、Adobe Acrobat 7.0 Professionalのオンラインヘルプを参照してください

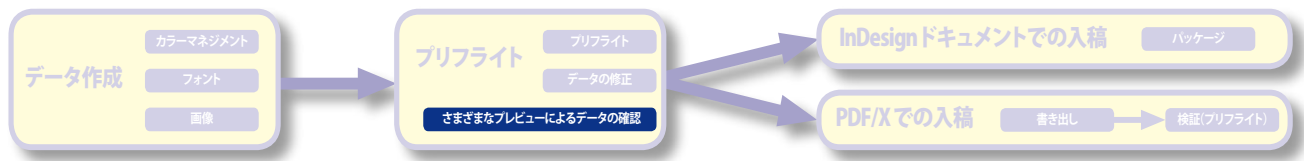
簡単な検証方法

PDF/X形式のファイルを検証する場合、プリフライトパネルの下にある「検証」ボタンの右側に検証に使用するプロファイル名が「PDF/X-1a」と記述されているなら、「検証」ボタンをクリックして簡単に検証することができます。ボタンアイコンをクリックし、「？」が「✓」に変われば検証は終了です。×印(5)が表示され、エラーが検出が出た場合は、結果パネルでエラーの情報を確認し、InDesignで元のドキュメントを開き、エラーの箇所を修正してから再度PDF/Xでファイルを書き出して検証してください。



さまざまなプレビューによるデータの確認

プリフライトではチェックできない、組版や設定のチェックは、InDesignに用意されているさまざまなプレビュー機能を使います。色やオーバープリントのチェックには、「色の校正」「オーバープリントプレビュー」を使います。また、実際にCMYKの各版に出力する際の色の分解を確認するには「分版」パレットを利用します。



分版のプレビュー

プリントされた出力でドキュメントがどのように色分解されるかをスクリーン上で評価するには、**分版プレビューパレット**を使用します。この特色プレートおよびプロセスカラープレート、またはプレートの組み合わせを表示できます。この時、オーバープリント、RGBとCMYKの変換および特色と透明の相互作用などの状態を表すため、必要に応じて透明が使用されます。ただし、トラップは試行されません。分版プレビューは、プロセスインキおよび特色インキのインキ特性を使用して計算されます。分版プレビューを表示するには、**ウィンドウ/出力/分版**を選択します。「表示」から「**分解出力**」を選択します。リストで選択した色の版がInDesign上で表示されるようになります。

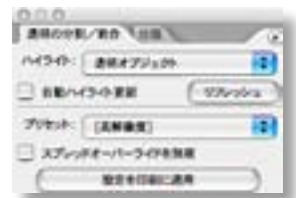


分版プレビューを使用する時には、次のヒントを念頭に置いてください。

- ドキュメント内に使用されている特色2色のみの場合でも、CMYKプレートは必ずリストされます。ただし、CMYKプレートにカラーをプリントする場合がない場合、CMYKプレートは出力されません。
- 分版プレビューパレットには、ドキュメントで定義されているすべてのインキが、ドキュメントで実際に使用されているかどうかに関係なく、リストされます。
- 特色をプロカラーに変換した効果と、特色インキをエイリアスした効果を表示できます。これらのオプションはどちらにも、分版プレビューパレットメニューのインキ管理で利用できます。
- Built InトラップまたはAdobe In-RIPトラップのオーバープリント効果はプレビューできません。プリント属性パレットにより、または透明を適用したオーバープリントの効果のみ表示されます。

透明オブジェクトの確認

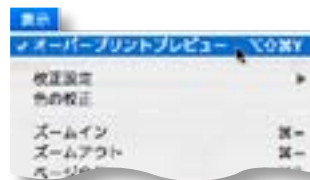
不透明度やドロップシャドウなどを設定した透明オブジェクトは、**透明の分割/統合スタイル設定**により分割、統合され、ラスタライズされて出力されます。この際に透明オブジェクトに文字や線が重なっていると、アウトライン化されるなど仕上がりに影響がありますので、**透明の分割/統合パレット**で透明オブジェクトが分割・統合される部分を確認し、重ねないようにするなどの処理をしておく必要があります。透明オブジェクトを確認するには、**ウィンドウ/出力/透明の分割/統合**を選択し、**透明の分割/統合パレット**を表示します。「ハイライト」から「**透明オブジェクト**」を選択します。「プリセット」は商用印刷では通常「**高解像度**」に設定します。InDesignドキュメント上で、透明オブジェクトの部分が赤で表示されます。



オーバープリントプレビュー

表示/オーバープリントプレビューを選択することにより、オーバープリント属性が使用されているオブジェクトが、**色分解出力**（「オーバープリント処理」オプションが有効な場合はコンポジット出力）でどのように表示されるかを試行します。オーバープリントプレビュー

ではインキの動作がモデル化されるので、明るいインキやスクリーンインキが使用されたオーバープリントオブジェクトは、実際にはプリントするとより透明に近くなるので、下にあるインキがさらに透けて見えます。



色の校正

表示/色の校正を選択することにより、InDesignドキュメント上のカラーがカラー設定で指定されているCMYKプロファイルのカラーで表示され、ソフトプルーフができるようになります。



アドビカスタマーサービス Tel. ナビダイヤル 0570-067337または 03-5350-0407 電話受付時間 9:30 ~ 17:30(土曜、日曜、祝日および弊社指定休日を除く)
アドビストア(注文専用) フリーダイヤル 0120-61-3884

Better by Adobe
アドビシステムズ株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.co.jp

この資料の掲載内容は、2005年9月末日現在のものです。内容に関しては予告なく変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

この資料は、Adobe Creative SuiteおよびOpenTypeで作成され、PDF/X-1aで出力されています。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobat、Acrobatロゴ、InDesignおよびPostScriptは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。OpenTypeおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。Macintoshは、米国およびその他の国々におけるApple Computer, Inc.の登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST522/05